

# DX戦略概要

---



**TAJIMA**

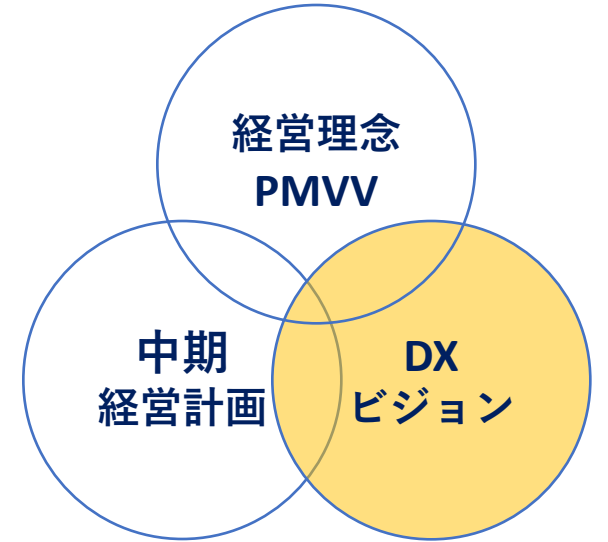
田島工業株式会社

代表取締役社長 海老原 寛子

# 1. 経営とDXの方向性

## (1) 策定の背景

- これまでの弊社が納めた様々な産業機器。これらは、お客様の操業の基盤として大切なものです。
- 2024年10月にはじめて、パーパス、ミッション、ビジョン、バリュー(PMVV)を策定。「**お客様と共に操業環境を創造する**」をパーパスに掲げました。
- その実現のため同時に「中期経営計画」を策定。10年先の未来に向けた自社変革のSTEP1として、3年間の基本戦略を「**人を育てシステムに投資し、成長基盤を整える**」としました。
- 今回、経営理念 (PMVV) と中期経営計画に加え、「**DXビジョン**」を定めることにより、自社のDX変革の方向性を明らかにし、その実現を推し進めます。



DX  
ビジョン

- パーパスに掲げた「操業環境の創造」をデータ収集・分析等によるデータ利活用により実現します。
- お客様とメーカー双方に、データから新たな価値を創出し、提供します。
- 業務の標準化、共有化による業務改革をデジタル技術により実現し、ビジョンで定めた「問題の最適解を探求」を進めます。
- 長年の業務で経験をデジタル世界へ転換し、データの蓄積、利活用に取り組み、持続的なサービス展開とサービス水準の向上を目指します。

# 1. 経営とDXの方向性

## (2) 弊社のPMVVに基づくDX方針

- DXの主たる目的として、デジタル技術を用いた業務の標準化・共通化、データの蓄積を進め、その利活用を通じ、経営理念（PMVV）の実現と顧客提供価値を高めることとしています。
- その上で、DX方針及び弊社の経営理念（PMVV）との関係、内容を以下にまとめました。

	方 針	内 容
方針 1	<b>デジタル技術の利活用による 作業環境の創造</b> （パーパス）	顧客機器の情報をデジタル技術を活かし精度の高い収集、分析を通じ「作業環境の創造」を実現する。
方針 2	<b>データドリブンな問題解決と 最適化</b> （ミッション）	情報の収集・分析を通じて、新たな課題発見と解決を迅速化を進める。 「問題の最適解を探求し、お客様とメーカーを繋ぐ」を実現する。
方針 3	<b>リカーリングモデルの進化・ 拡大</b> （ビジョン）	機器情報の一元化を進め、サステイナブルに貢献する「田島のリカーリングモデル」をDXで強化・拡大する。 保守・点検のデジタル化により、長期的なパートナーシップを構築する、
方針 4	<b>DXを通じた組織価値の創造</b> （バリュー）	「常にあたり前の先へ」 → AI・自動化等の活用による業務効率化 「長期的な関係と価値追求」 → データ活用で顧客価値向上 「社員の幸せとチーム力」 → デジタルツール活用で働きやすい環境整備

# 2.DX戦略

## (1) 現状のDXの課題と課題解決に向けた戦略

全体的な業務見直しや情報共有できる仕組みを設け、スムーズな業務、チームでお客様にご対応できる環境づくりを進めます。

DX方針	課題	戦略
方針3 リカーリングモデルの進化・拡大 (ビジョン)	業務体系毎に分かれた機器情報管理	<b>戦略1 機器データ起点のリカーリングモデル強化</b> 機器情報管理を高度化し、販売から保守までの情報利活用により、リカーリングビジネスの進化と拡大を図る。
方針1 デジタル技術の利活用による操業環境の創造 (パーパス) 方針2 データドリブンな問題解決と最適化 (ミッション)	属人化された受注業務	<b>戦略2 業務標準化とデータ活用による組織対応力強化</b> 業務標準化を進め、チームでの業務対応力強化、データ分析力によって、問題の最適解を探求する。
方針2 データドリブンな問題解決と最適化 (ミッション)	属人化された顧客情報の蓄積	<b>戦略3 顧客情報の統合による持続的関係構築</b> 顧客情報の蓄積と共有化を進め、組織として持続的な顧客情報の理解とそれを元にした新たな価値提案を進める。
方針4 DXを通じた組織価値の創造 (バリュー)	既存業務を中心とした人材育成	<b>戦略4 デジタル変革を支える人材・組織基盤の確立</b> DX検討を通じ、デジタルによる業務変革の視点を養い、DX・GX視点の社員の成長と組織価値向上を進める。

# 2.DX戦略

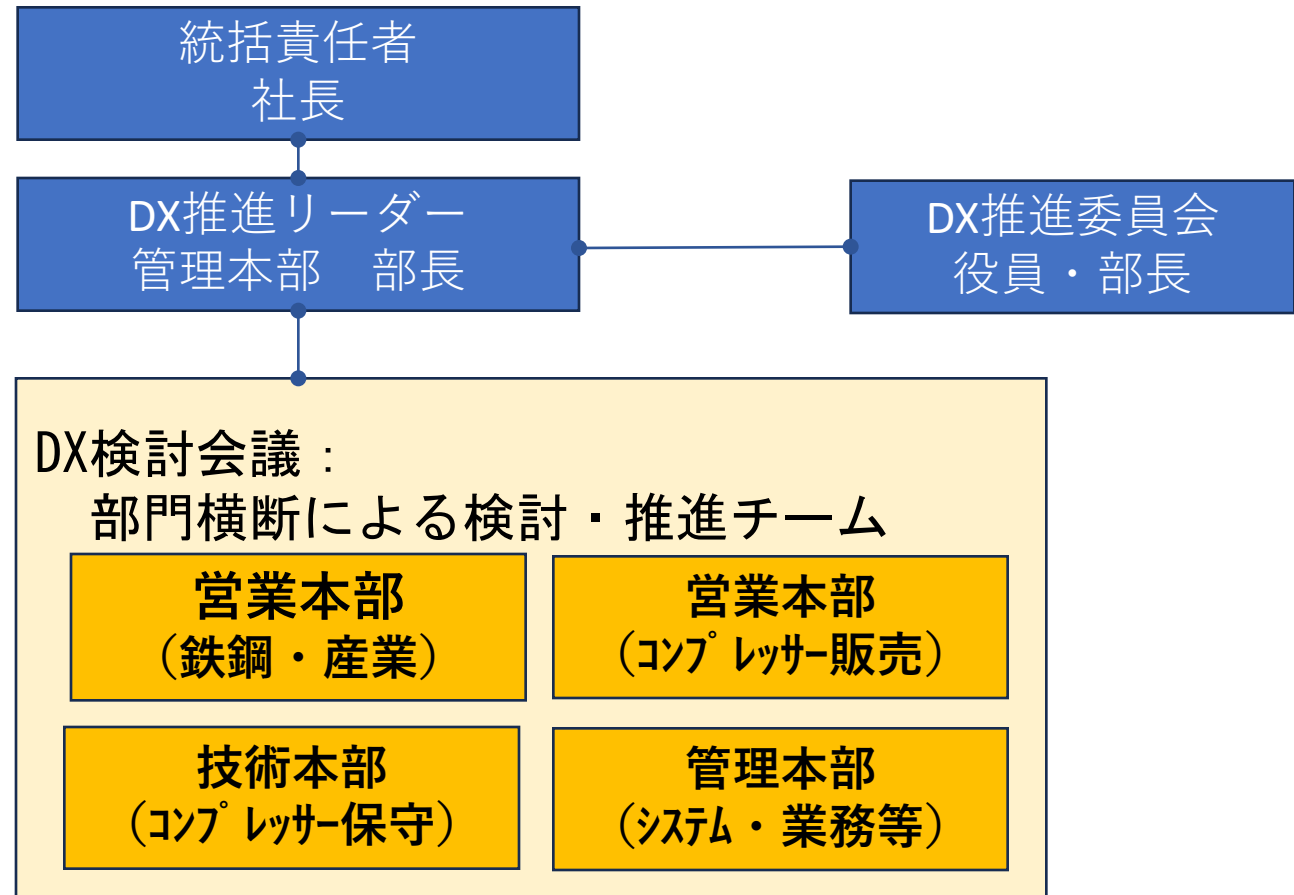
## (2) 環境整備の具体的方法

戦 略	施策
<b>戦略1</b> <b>機器データ起点のリカーリングモデル強化</b>	<b>情報基盤の統合</b> 販売、整備で異なるシステム、データ保存場所を一元化し、機器の更新をライフサイクルに沿ったサポートを可能にします。
<b>戦略2</b> <b>業務標準化とデータ活用による組織対応力強化</b>	<b>業務標準化による営業業務の生産性向上</b> 見積から請求に至る業務フローと客先提出書類の標準化により、営業・メンテナンス業務の工数を削減して生産性を向上させます。
<b>戦略3</b> <b>顧客情報の統合による持続的関係構築</b>	<b>顧客情報基盤の構築</b> 顧客情報を取り出しやすく格納した基盤を構築し、データ分析や必要情報の抽出可能なデジタル技術の利活用により、長期的な支援体制を強化する。
<b>戦略4</b> <b>デジタル変革を支える人材・組織基盤の確立</b>	<b>デジタル技術活用の環境整備</b> DXに関係した人材育成のためのデジタル活用ツールの導入による環境整備やDX/GX人材の研修等を通じ、デジタル技術を活用できる人材を増やす。

# 2.DX戦略

## (3) 推進体制

### 田島工業（株）DX推進体制



# 3.DX戦略達成の指標

期待される効果と指標を定め、4つのDX戦略に取り組みます。

	戦略	期待される効果	指標
1	<b>戦略1</b> 機器データ起点のリカーリングモデル強化	情報活用をした付加価値提案 メンテナンスや故障等のスムーズな対応	2つのしすてむと3つの格納場所に保存されたデータを1システムに統合。 ・機器情報登録数 50件
2	<b>戦略2</b> 業務標準化とデータ活用による組織対応力強化	主要な製品、部品、整備見積の標準化による業務効率化	・見積作成の標準時間を20%削減 ・作業報告書の提出日数を30%削減
3	<b>戦略3</b> 顧客情報の統合による持続的関係構築	顧客情報の蓄積により社内・社外対応の最適化・付加価値提案	全体売上の40%を占める上位8社の顧客情報のデータベース化 ・整備履歴の登録 3年分
4	<b>戦略4</b> デジタル変革を支える人材・組織基盤の確立	社員の知識向上 お客様へのDX視点での提案	デジタル活用ツールの活用割合 ・IT、DX関連資格取得者数 1人 ・関連研修受講者数 2人

進捗管理：毎年2回開催するDX検討会議にて進捗を確認する

# 4.DX人材の育成

DX戦略に基づく研修や資格、OJTを通じたDX・GX視点の人材育成に取り組みます。

## 研修・資格等による人材育成

- IT・DX関連資格者育成のため、推奨研修を定め、受講を促す。  
ITパスポート、DX経営アドバイザー等
- 資格に関するお祝い金支給規定を見直し、DXに関する民間資格等を追加し奨励する。
- 研修にかかる費用を会社負担にて受講を進める。

## OJTを通じた人材育成

- 社内横断的な検討会議を設け、様々な世代が参加することで、検討を通じた知識や視点取得を目指す。
- GX人材育成については、メーカー主催の商材等の講習や社内勉強会、展示会などへの参加を通じて、お客様にご案内できる知識取得を進める。

# 5.セキュリティ対策

DX戦略策定にあたり、セキュリティ対策を推進しています。

- 公的機関による認証の推進：セキュリティアクション2つ星の申請
- 社内設備・サービスに対して継続的なセキュリティ対策
- 社内セキュリティ意識の向上：会社全体説明会を実施
- 取引先等から求められるセキュリティ対策に関する報告
- 「情報セキュリティ基本方針」を作成し、社内・社外周知